

虚空尽き、衆生尽き、

涅槃尽きなば、

我が願い尽きなん

弘法大師空海 『性豊集』より

残暑厳しい季節が終わり、境内の木々も少しずつ色付き始め、秋が近づいている事を感じます。近づくといえば、お彼岸はご先祖様や仏様が住む悟りの世界である彼の岸（彼岸）と、私達が住んでいる世界の此の岸（此岸）が最も近づく日と言われています。したがって、彼岸にいるご先祖様に思いが届きやすく、お墓参りへ行き先祖供養をするのに適した時期なのです。ちなみに彼岸の語源は、「パーラミター（波羅密多）」というインドの言葉で「限りの無い完成・完全」という意味を持ち、「悟りの岸に渡る」と訳されたことから生まれた言葉です。

さて、お彼岸は先祖供養の他に、「自分自身が彼岸に渡るための

修行を行う期間である」とされています。彼岸とは悟りの世界と前述しましたが、悟りの世界に渡るには六波羅蜜（布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧）という修行を実践する必要があります。

- 布施…自分を持たない
- 持戒…心を戒める
- 忍辱…侮辱や苦しみ能耐え忍ぶ
- 精進…諦めない
- 禅定…平静を保つ
- 智慧…物事の本質を見極める

六波羅蜜とは難しい事ではなく、他者を思いやる事を伝えています。これは真言密教で言うところの相互供養・相互礼拝です。他

者を思いやる事は、即ち自分自身を思いやる事になります。人は皆一人で生きているのではなく、万物の繋がりにある「縁」によって存在しています。それを理解する事が、他者を思いやる事に繋がります。お彼岸は中日の秋分の日を挟み前後三日、計七日間あります。お彼岸の期間に六波羅蜜を意識した生活を実践する程度でしたら、できる方も多いかと存じます。

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉もあり、お彼岸は季節の変わり目です。この節目に六波羅蜜を通して自身の心の在り方について考え、是非それを行動に移してみてはいかがでしょうか。



傳燈館建設のお知らせ

平福寺駐車場から道一本挟んだ東側の土地（表写真）に、任職より発願されました地域交流施設「傳燈館（仮称）」が建設される運びとなりました。当山の光秀住職は、平成三十年十月に真言密教最奥の阿闍梨位である「傳燈大阿闍梨」とは、一流伝授と、高野山学侶にとって必修の勸学会を受けた後に、十数年に一度開壇される、高野山において一番の厳儀で



傳燈大阿闍梨光秀

ある学習灌頂に入壇を許可された者のみが授かる称号です。

つきましては、これを機に地域への長年の感謝に報いる活動を行う場として、地域交流施設の建設を発願された次第であります。「この施設が地域の皆様のため、子供達の将来のため、そして我々自身の励みのためになることを願っております。」（光秀住職）この施設ではどなた様もご利用できる場として次のような利用を考えております。

- 料理教室（そば・やしよつま・七夕まんじゅう・餅つき等）
- 地域文化学習（講師を招致）
- 宗教的活動（納棺・通夜・法事・葬儀・座禅・写経等）
- 運動施設（体操・ヨガ等）
- その他

完成は年明けを予定してまいります。宗教的活動にこだわらず幅広い活用を考えておりますので、完成後は多くの方にご利用頂けることを願っております。

今回のお言葉

今月号のお言葉は、真言宗の開祖であり、高野山を開山された弘法大師空海和尚のお言葉です。

お大師様が高野山に壇上伽藍を建立する際、少しでも早く伽藍を完成させたいという願いを込め、たくさんの方の灯明・華で仏様を讃える萬燈萬華会を行いました。その時の祈願文にこの言葉が記されております。意識すると、「この宇宙の生きとし生けるもの全てが仏となり、涅槃を求めるものがいなくなるまで、私の願いが尽きる事はない」即ち、お大師様の願いは未来永劫尽きることはないのです。そのため、今もなお高野山奥之院の御廟にて瞑想し、世界中の人々のために祈り続けているのです。

年間行事

- 一月 厄除け祈願大祭
- 二月 旧正月
- 三月 春季彼岸会・涅槃会
- 四月 研修旅行
- (阿字の子会主催)
- 五月 春季例祭・大般若会
- 七月 高野山参拝旅行
- 八月 夏季例祭・大施餓鬼会
- 九月 秋季彼岸会
- 十二月 二年参り

墓地情報

安曇野市楡地区「アルプス自由墓苑」にて墓地区画を分譲中です。不明な点はご相談ください。

ホームページ

下のQRコードよりサイトに移動できます。※周りの方に広めて頂けたら幸いです。

